

信玄がつくった理想郷

——甲府

うーん、まだ思い出せないな。はたして武田神社にお参りしたのかどうか……。

甲府市は何かと縁のあるまちだ。お隣の竜王町（現甲斐市）で区画整理の勉強会をしたのは20年ほど前のこと。事業化直前で断念したものの、その後も甲府市内で事業化検討の機会があつてよく訪れた。それなのに、甲府の原点にして象徴である武田神社参拝の記憶がない。いつそ確かめに行くかとハンドルを握った。

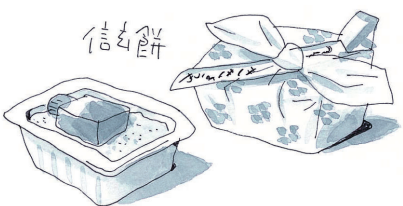
甲府駅の観光案内所で地図をゲットしていざ武田神社へ。駅北口から「武田通り」をクルマで約2km北上。「あれ？来たことがない！」。甲斐の国で事業化がかなわなかったのは、不信心ゆえか。

この武田神社は、名将武田信玄公を祀る社だが、かつては信虎、信玄、勝頼と武田家三代の館であつた。武田家は北に急峻な山を背負うこの地を本拠とし、南に幹線道路をつくり、家臣の屋敷、寺院、商人・職人の住まいを巧みに配置。さらに「信玄堤」に代表される治水工事も積極的に進めた。まさに「計画的なまちづくり」

謝恩碑があるのみで、平成になって20年以上かけて甲府城跡が復元され、現在は観光の目玉となっている。甲府城の築城が本格化したのは、1582年の武田家滅亡後に織田信長を経て徳川家康が領有し、豊臣の諸大名が甲斐を支配するようになってからのことだ。関が原の合戦以降は徳川の所領となり、城下町も整備されたとか。明治維新で廃城となつたが、敷地は現在の甲府駅や県庁を含め約18畝に及んでいた。

「人は城、人は石垣、人は堀。情けは味方、仇は敵なり」の名言を残したのも信玄だ。大河ドラマ「真田丸」「おんな城主直虎」でも描かれているが、つまるところ名将の強さは「人」を重んじたことにあり、上杉謙信と並ぶ東の雄となつた所以だろう。

双葉50周年の会社案内作成時に、「こんなまちを創りたい」というページを設けて、街のイメージ図を載せたことがある。駅を中心に商業・業務エリアの賑わいがあり、住宅地があり、郊外にはくつろげる公園や運動施設、河川敷にはバーベキューなどの遊び場。高速道路のインターチェンジが近く、ゴルフ場もすぐ。甲府市には、そんな思い描いたままのまちなみが広がる。小瀬スポーツ公園、笛吹川、中央高速「甲府昭和IC」があり、名勝「昇仙峡」も近い。加えて「甲州ワイン」「葡萄と桃」「ほうとう」「鳥もつ煮」



甲州銘菓「信玄餅」。粉をこぼさずに食べるのは難しい